

ネギ黒腐菌核病に対する育苗トレイ薬剤灌注の防除効果

○供試薬剤と使用方法(2020年7月22日に適用拡大登録)

薬剤名	希釈倍数	処理量	使用時期	使用回数 ^{※2}	備考
パレード207ロアブル	100倍	0.5ℓ/箱 ^{※1}	育苗期後半 ～定植当日	1回	殺虫剤、殺菌剤との混用処理可能 ^{※3}

※1 セル成型トレイまたはペーパーポット(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)

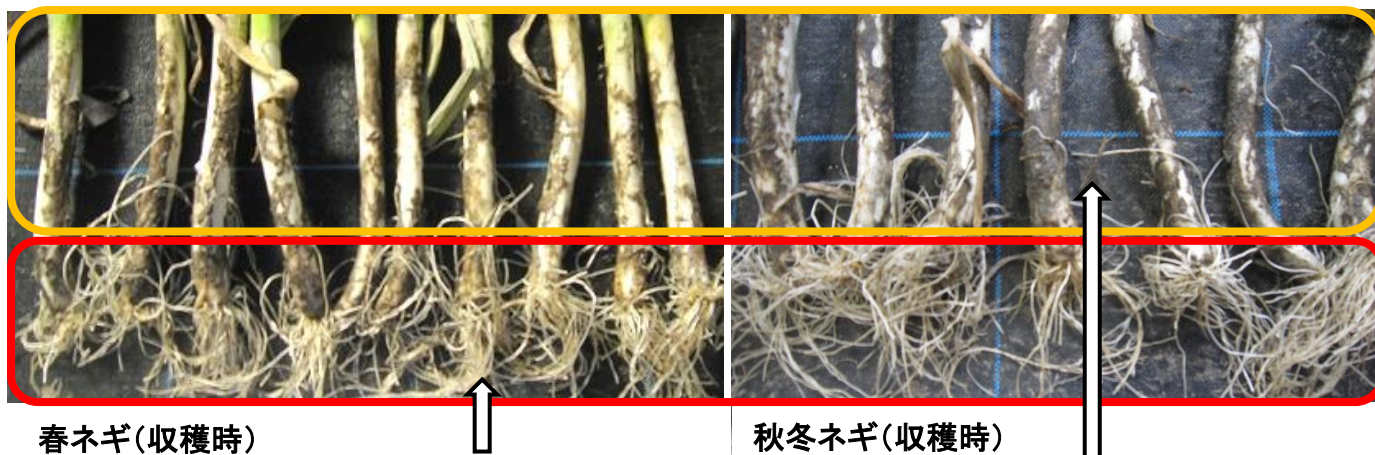
※2 ピラジフルミドを含む農薬の総使用回数:3回以内

※3 ベリマークSC、トリフミン水和剤などの育苗トレイ灌注薬剤と混用可能

○ネギ黒腐菌核病に対するパレード育苗トレイ薬剤灌注の防除効果

本病甚発生ほ場(土壌消毒なし)での試験結果です。灌注処理のみで、春ネギ、秋冬ネギともに根、盤茎部の発病が確実に抑えられ、ネギ可販割合は95～100%、ネギの生育・肥大も良く、本病に対し高い防除効果が得られます。

しかし、灌注処理のみでは、葉鞘部に菌糸・菌核の付着がみられます。皮剥ぎすれば出荷できますが、残渣は次作以降の伝染源となります。



春ネギ(収穫時)

秋冬ネギ(収穫時)

根部、盤茎部の発病を抑える

葉鞘(軟白)部に菌糸・菌核が散見される

そのため、灌注処理に加えて、秋冬ネギでは9月上中旬、春ネギでは10月中下旬(小菌核腐敗病の同時防除を兼ねて)に、本圃でのネギ黒腐菌核病の薬剤防除を行う必要があります。

表 トレイ灌注+本圃散布の防除効果

試験年	作型	トレイ灌注	本圃散布	ネギ黒腐菌核病の防除効果			小菌核腐敗病発病度
				可販割合(%)	発病度	収量(kg/a)	
2018年	春ネギ	●	●	100	33.3	697	25.8
		●	●	100	33.3	839	5.4
		(無処理)		0	100	0	—
2019年	秋冬ネギ	●	●	94.8	25.4	460	—
		●	●	98.2	19.4	495	—
		(無処理)		42.6	52.5	194	—

可販割合:出荷可能なネギ本数/全収穫本数*100

春ネギ:8月3日定植(チェーンポット)、3月9日収穫調査、本圃散布:10月19日(パレード)

秋冬ネギ:5月22日定植(ロングピッチチェーンポット)、12月10日収穫調査、本圃散布:9月9日(セイビア)

育苗トレイ灌注は、省力的かつ効果的な防除方法です。

本圃散布と組み合わせると、防除効果はさらに高まります。